



大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会

第3号

発行日：2015年9月30日

# 大阪 京都 OK委員会ニュースレター

## ケミストリー

大阪教区主教

アンデレ 磯晴久

先日井上進次司祭とお話を  
して、京都教区と大阪教区  
の合併について、とにもア  
メリカのプロバスケツト  
ボールでよく使われていま  
した。「京都教区との合併  
は、ケミストリーです。」こ  
のことは、私の心の中に  
あつた思いを的確に表して  
くれる一言でありました。  
教区合併のメリットは、聖  
職者数のこと、財政的なこ  
となどありますが、私  
が一番のメリットと考えま  
すのは、まさに「ケミスト  
リー」なのです。「ケミスト  
リー」は、化学反応と訳せる  
ことばです。異なつた2つ  
の物質が出会い、結びつけ  
られるとき、そこで起こる  
反応のことです。それが人  
と人との結びつきも化学反  
応にたとえられるようなこ  
とで、そこから生まれてく  
るプラスアルファの価値や

結束力を「ケミストリー」と  
呼ぶようになりました。殊  
にアメリカのプロバスケツ  
トボールでよく使われてい  
るようです。  
京都教区と大阪教区  
の合併で期待されるメリッ  
トは、「ケミストリー」な  
ので、神の導きの下、ユニ  
ークな聖職団、ユニークな  
求道者団が出会い、結び合  
わされ、共に歩み出すとき、  
そこにプラスアルファの価  
値や力が生まれて来るので  
す。  
お叱りを恐れずに言いま  
す。

しよう。今のままでは大阪  
教区も京都教区も緩やかに  
倒れていきます。それを静  
かに看取るというあり方、  
生き方もあるでしょう。し  
かし宣教共同体として神か  
ら招かれ、集められている  
私たちが、それでいいので  
しょうか。少しでも力ある  
うちに、何か、事を起こす必  
要があるのではないでしょ  
うか。京都教区と大阪教区  
の合併問題は、昨日今日に  
話し合われたことではな  
く、もう数年以上に亘つて  
検討されてきたことです。  
私は、合併という課題は、神  
から与えられた機会・チャ  
ンスなのではないかと考え  
ています。

聖書は次のように語ってい  
ます。「兄弟愛をもって、互  
いに愛し、尊敬をもって互  
いに相手を優れた者と思ひ  
なさい。」(ロマ12・10)  
異質なものを決して一つ  
になれないもの、対立する  
もの、排斥していいとする  
ものが横行する今の時代に  
考えが横行する今の時代に  
あつて、違いを大切に、愛  
し、尊敬をもって相手を優  
れた者と思う生き方を実現  
することは、神の栄光を現  
示し、平和を実現していくと  
いう証しを立てることにな  
るのではないでしょう  
か。



よく京都と大阪では気質  
が違う、チャーチマン(ウ  
ーマン)シップが違うと言わ  
れます。しかし、同じ教区内  
の教会間でも違いがあるで  
はありませんか。私たち信  
仰者は、どう思うかを  
持つて共に歩いていくか、  
りませんか。  
さあ京都教区の皆さん、  
大阪教区の皆さん、「ケミス  
トリー」を起こそうではあ  
りませんか。



## 教区合併が課題として浮上してきた背景

1974年に設置された「教区制改革委員会」は、全国的規模の教区再編成を展望しましたが、管区の方針にはなりませんでした。その後、各教区の教役者数の減少から、主教選出の困難さなどの問題が痛感され、教区制改革の必要性がますます強く認識されていきました。2004年に開かれた日本聖公会第55(定期)総会において、「教区制改革を推進する機関」設置の件が採択されました。そこでは「教区区域の問題、教役者人事に関わる諸問題(人事配置、給与制度、福利厚生等)、財政的格差等について、法規改正を含む具体的な改革案を4年後の定期総会に提案する」とされていきました。教区区域の不合理な点も強く認識されていきました。

2008年に開かれた日本聖公会第57(定期)総会では、各教区の意識的格差、「総論賛成・各論反対」の雰囲気の中で、具体的な議案の

提出は困難と判断されました。そして具体的な教区間の関係の変革を促すような「ムーブメント」を起す。その中で、「現在の日本聖公会11教区を、複数の宣教協働ブロックに編成し、2総会期取り組む件」という議案が可決され、担当主教と担当デスクが置かれました。しかし、その提案は、具体性に欠け、教区の側からのアクションを求めたものでした。その結果、例えば、北海道教区と東北教区、東京教区と北関東教区、横浜教区と中部教区、京都教区と大阪教区、神戸教区と九州教区、九州教区と沖縄教区などの組み合わせで、合同教役者会や懇談会が開催されましたが、かえってそれぞれの教区のチャームシップの違いなどが顕わになり、その実りは決して大きいものではありませんでした。

その中で、京都教区と大阪教区の取り組みは、比較的実り豊かだなものでした。合同教役者会は2

005年から継続的に開かれ、相互の理解と親近感は深まりつつありました。管区としても、両教区の取り組みを一つのモデルケースとして捉えるという理解が生まれて来ました。両教区の常置委員会も数度にわたって懇談会を持ち、双方の現状を報告し合い、論議を深め、2011年秋の京都教区および大阪教区の定期教区会において、「大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」の設置が決議されました。



2011年の定期教区会にて「大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」(以下「検討委員会」)の設置が決議され、合併の諸問題を検討していきました。2012年にOKニュースレター1号を発行し、両教区主教の考え、主な委員会の各委員長からのコメント、教役者数の推移などの資料をお伝えいたしました。2013年に発行した第2号では、両教区主教が主日に巡回した教会で説明をし、アンケートを実施、その結果をお伝えいたしました。

2013年の教区会にて「大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会」(以下「推進委員会」)の設置が決議され、合併を行うために必要な諸問題(法規、給与基準、合併後の大きな組織編制)を検討してきました。今回改めてニュースレターを発行することで、教区合併についてのご理解を深めて頂ければと思います。なお、過去に発行した2つのニュースレターを御希望の方は教会の教役者にお知らせください。

(大阪教区と京都教区の

合併を推進する委員会)

## 合併後の宣教ビジョンについて

当委員会の業務の一つに「合併後の具体的な宣教ビジョンを提示する」と言うものがあります。しかしながら、宣教のビジョンを明確化するということは、実現不可能な目標を立てるということではありません。現在各教会が抱えている具体的な問題を集約しそれに対して、個別に対応、または対応策を検討した上で、目標を立てる必要があります。そういう意味では現在の両教区でも、宣教ビジョンを明確化できていません。

世界の聖公会、アングリカン・コミュニオン、「新管区・教区の設立ガイドライン」の中に教区の設立要件として「宣教のプランを立てて、効果的にそれを運営していくことができないような小ささであってはいけない」ということが書かれています。ガイドラインによれば、両教区とも教区としての要件が満たされていないのではないのでしょうか。

当委員会の能力、作業に割ける時間を考えれば、「合併後の具体的な宣教ビジョンを提示する」こと

が現在では不可能であると判断しました。そこで、「合併教区には専任の宣教主事を置く」という提案をいたします。

専任の宣教主事が毎主日に各教会、伝道区を巡回し、教会が直面している個別の宣教課題を集約していきます。それに対してのアドバイスや、必要とあらば小委員会(作業部会)を立ち上げ、具体的な指示をしていくというものです。

全教会を一巡する頃には、教区の宣教課題が明確になって行き、具体的な宣教ビジョンを提示することが可能となるのではないかと考えております。専任の宣教主事を置くことによって、宣教のプランを立て、効果的に運営していくことが可能になれば、合併によって生じる大きなメリットとなるのではないのでしょうか。

また、世界の聖公会の「宣教の五指標」には、「み国の福音を宣言すること 改宗者を教え、洗礼し、養育すること 人のニーズに愛の奉仕をもって仕えること、社会の不公平な機構を改革し、あらゆる種類の暴力に対抗し、平和と和解を追求すること 被造物の完全な姿を守り、地球の維持と再生とに努める」が掲げられています。

また、世界の聖公会の「宣教の五指標」には、「み国の福音を宣言すること 改宗者を教え、洗礼し、養育すること 人のニーズに愛の奉仕をもつて仕えること、社会の不公平な機構を改革し、あらゆる種類の暴力に対抗し、平和と和解を追求すること 被造物の完全な姿を守り、地球の維持と再生とに努める」が掲げられています。

す。合併後の宣教プランも、この五指標のそれぞれにおいて、どのような前進が見られるかを考える必要があります。

そして、合併によって大きな変化が起こることが期待されている主なことを挙げてみたいと思います。

・京都教区と大阪教区のそれぞれのチャーチマンシップを対立的に捉えるのではなく、聖公会の多様な表れと捉え、互いに学び合い、刺激し合うことによって豊かな礼拝をささげることが出来ます。

現京都教区の地域にある豊かな自然の中で、野外礼拝やキャンプなど多彩な活動がなされることが期待できます。それぞれの教区が抱えている宣教課題を共有することによって、今まで未知であった課題について学び、関わり、宣教の豊かさ追求することが出来ます。主なトピックとして被差別部落、在日韓国朝鮮人、釜ヶ崎、原発、農漁村の疲弊、ヘイトスピーチなどの課題が上げられます。それぞれ

の課題を担い合う共同体として歩むことにより、豊かな宣教活動が展開されます。合併により生まれ

る人的リソースを「適材適所」に配置することによって、より柔軟かつ有効に用いることが出来ます。そして、教会間協働を活発に行うことが出来ます。そして、ここに挙げたことに留まらず、さまざまな事においても協力しあう関係が深まるのではないのでしょうか。

2011年の教区会でOK検討委員会が設立された時の常置委員

会からの提案理由では「両教区の間には、教役者給与や勤務地の広がり的问题、チャーチマンシップの違いなど埋めるべき課題は少なくないが、むしろ、多様性を受け入れることにより、礼拝・宣教・牧会における発想と展開、さらには教区組織体制や人事配置など多くの面で新たな可能性を期待することが出来る。合併への前向きな取り組みがそれぞれの教区の将来に向かって重要な礎となることを両常置委員会は信じるものである(抜粋)」とあります。当委員会でも、当初から期待されている取り組みが進むことを願って、さらにビジョンを深めたいと思います。



# 現在の合併推進委員会における論議

それぞれの小委員会で進めている作業  
 教区合併の法的問題(行政、教会法規)  
 教区の編成(主教座聖堂、教区事務所、座聖堂、教区事務所、地区割り、補佐主教等)  
 財務問題(給与基準を含む) 各委員会

かかる登録免許税がかなり額になることが判明。学業を展開している教会、施設が京都教区の方が圧倒的に多く、便宜上、京都教区への吸収合併という形を取ることが合併時の出費が減らせる。

これら4つの課題を解決するため作業部会を設け、両教区主教の具体的な展望を確認しながら検討、調査を行っている。また、情報発信として両教区報に進捗状況を掲載(2か月に1回)。

・現状は大阪教区は年一回、京都教区は年一回開催している。経費の面からも、合併の一回になる可能性が高いが、工夫をする必要がある。

・大きな礼拝や按手式などで用いる。主教座聖堂としてではなく、新教区の大聖堂(第二主教座聖堂)として。また、維持費も合併教区が一部負担する。

・現状は大阪教区は年一回、京都教区は年一回開催している。経費の面からも、合併の一回になる可能性が高いが、工夫をする必要がある。

・大きな礼拝や按手式などで用いる。主教座聖堂としてではなく、新教区の大聖堂(第二主教座聖堂)として。また、維持費も合併教区が一部負担する。

・大きな礼拝や按手式などで用いる。主教座聖堂としてではなく、新教区の大聖堂(第二主教座聖堂)として。また、維持費も合併教区が一部負担する。

## すでに始まっている「合併」

生涯学習委員会(大阪)・教育部(京都)は以前から両教区主催のキャンプなどのお誘いはお互いの教区がしておりましたが、2012年から両教区の教役者、リーダーも準備段階から参加して合同のキャンプが始まりました。



大阪教区からの参加者も徐々に増え、この夏の小学生、J's キャンプ(中高生世代)では3年前のほぼ倍の参加者が集められ、教区の分け隔てなく、ともに出会い、祈り、食事を共にしました。

小松での青年有志キャンプなど、積極的な繋がりを持っていきます。

大阪教区主催のキッズフェスティバルにも京都教区からスタッフが参加し、少しずつですが豊かな交わりを経験しております。

大学生世代は以前よりU26(ゆーじろー)の集まりなどで横の繋がりができており、グループのワークキャンプや北

京都教区執事 出口宗

OK委員会ニュースレター

大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会

発行日：2015年9月30日

日本聖公会大阪教区事務所：大阪市阿倍野区松崎町2-1-8

日本聖公会京都教区事務所：京都市上京区烏丸通下瓦町3-3-0

